



広域避難者支援連絡会in東京の 取り組みについて

東京災害ボランティアネットワーク
事務局 福田信章

連絡会のはじまり

- 連絡会のはじまりは、2012年夏、JCN主催の広域避難者支援ミーティング全国版での指摘からでした
- 「広域避難者支援連絡会in東京」は、JCNが実施する「広域避難者支援ミーティングin東京」を、地元(東京)の地域団体として取り組む集まり(連絡会準備会)として始まりました。(2013年1月)
 - 参加団体は、東京ボランティア・市民活動センター/震災がつなぐ全国ネットワーク×日本財団ROADプロジェクト/東京都生活協同組合連合会/公益財団法人さわやか福祉財団/中央労働金庫/災害復興まちづくり支援機構/東京災害ボランティアネットワークの7団体
- 2013年3月に第一回広域避難者支援ミーティングin東京を開催
- 2013年5月に連絡会準備会から連絡会へ
「広域避難者支援連絡会in東京」発足
 - ただ、この段階では組織体とはせず、あくまでもそれぞれの支援活動を共有し、MTGを主催する体制としました

バディ制について

- 2013年7月に第二回広域避難者支援ミーティングin東京を開催
 - 第一回、第二回のMTGを通じて、都内に避難当事者の団体がサロン等を実施している実態を把握することになりました。
- 第三回MTGに向け、当事者団体の方々との連携を深めるために、当事者団体と支援団体をマッチングし、バディ制を取るように決定。
 - 各地でサロン等を実施している当事者団体に担当の支援団体を置き、定期的にサロン等に顔を出して情報交換できる関係を作りました。
 - このバディ制は、実は狗肉の策でもありました。
 - 連絡会の参加団体は、必ずしも直接的に支援をしている団体ばかりではなく、「何かをしたいと思って参加した団体」「単発的に(イベント的に)支援している団体」もありました。それらの団体は、実は避難当事者の方々とゆっくりと話をした経験がなく、当事者の置かれている状況を知る機会を持ったことがほとんどなかったのが現状でした。

当事者団体の特性

- バディ制を取るようになり、各当事者団体の特性がわかるようになりました。
 - 当事者団体といっても、様々な活動形態があることがわかりました
 - <避難先グループ>
避難先を拠点としてサロン等を実施している団体。メンバーは福島県、宮城県、岩手県等様々だが、基本的には避難先の市区町(もしくは地区)に住んでいる
 - <避難元グループ>
主に福島県の自主避難グループや避難元の市町でまとまった団体。メンバーは避難元の町民(市民、県民)。都内はもとより、都外で避難生活をしているケースも多数
 - <テーマ型グループ>
子育て支援や子ども支援等、テーマを持って活動しているグループ。メンバーはテーマに沿った対象者で、都内はもとより、都外で避難生活をしているメンバーも多数

当事者団体との連携

- 第三回広域避難者支援ミーティングを契機に、当事者団体との連携を深めていくことになりました。
 - 2013年11月には、2つの当事者団体と連携しての「紅葉狩り2013秋」を実施し、12月には、5つの当事者団体と連携しての「お正月準備の会」を実施しました
- 2014年2月には、当事者団体だけのクローズドミーティングとして、第四回広域避難者支援ミーティングin東京を開催
 - 避難当事者団体12団体14名の方々にそれぞれにバディを付け、当事者団体＋バディが共に参加しての意見交換を実施
 - この中で、都域での取り組みの提案が当事者団体から出されたことで、その後の連絡会の活動は、当事者団体との連携を軸に取り組んでいくこととなりました

今年度の取り組み

- 2014年6月に、連絡会を組織化する目的で総会を実施
 - ここで規約を作り、代表を置き、組織体として連絡会をそれぞれの団体内に位置づけることとしました
- 2014年6月に第五回広域避難者支援ミーティングin東京を開催（この取り組みはJCNの広域避難者支援MTGin関東と共催）
- 同時期に、都内の12の当事者団体と共に都域で取り組むバスハイク(交流会)企画を実施するための実行委員会を設置しました。
 - この実行委員会は、これまで6回開催しています。11月には100名規模のバスハイク(交流会)を実施することができそうです
- 2014年9月に第六回広域避難者支援ミーティングin東京をクローズミーティングとして開催
 - ここでは都内14団体の当事者団体が参加
 - テーマは、「各県・各市町の復興支援員」として、福島県、宮城県、東京都、福島県大熊町・浪江町・双葉町・富岡町等に登壇していただき、情報提供をいただきました

今後について

<当事者団体との連携>

- 今後も当事者団体の方々との連携を軸に活動を展開したいと考えています
- 現在取り組んでいる都域でのバスハイク(交流会)を発展させ、来年度の取り組みに生かしていきたいと考えています

<課題>

- 避難当事者の方が抱えている個別具体的な課題に対してのアプローチ
- 当事者団体とのさらなる連携
- 連絡会の広がり
- 財政課題